

オセアニア地域向け展開の可能性

大城 善盛
(元同志社大学教授)

Inviting Library and Information Science Researchers and Professionals in the Oceania Region to Join LISSASPAC

By Zensei OSHIRO
(Professor, ret. of Doshisha University)

(日本語抄録)

1) 「LISSASPAC から見たオセアニア地域の図書館界の誘因」、2) 「オセアニア地域から見た LISSASPAC の誘因」、の視点で検討した。1) に関しては、a) 『オーストラリア・ニュージーランド標準職業分類』が「ライブラリアン」、「図書館テクニシャン」、「図書館アシスタント」は別の職種と理解しており、社会的にも図書館職の専門職化が進んでいることで、アジアの国々にとっては大きな魅力であろう。

b) オーストラリア図書館情報協会 (ALIA) がライブラリアンと図書館テクニシャンを図書館情報専門職と理解し、その2種の職業人を養成するプログラムを認定している。c) ニュージーランドでも状況は似ている。d) ALIA が2016年に公表している公共図書館ガイドラインは、国際的にも優れたものである。

2) に関しては、a) ALIA のガイドラインが、公共図書館の役割として「経済発展と労働力の増進」やデジタル・ディバイドの解消を挙げているが、それはオーストラリアだけの課題ではなく、アジア全般にとって極めて重要な課題であり、オセアニアとアジアの図書館関係者が連携して取り組む必要がある。b) A-LIEP が頻繁に開催され、またオーストラリアのライブラリアン養成プログラムには平均的に全学生の約10%が在籍しており、殆どはアジアからの留学生である。このような状況は、LISSASPAC への参加の機運は高めていると理解できる。c) オーストラリアの大学図書館ではアジア・スペシャリストが充足できていない。それもオセアニア地域の図書館人から見て LISSASPAC の魅力であろう。

(Abstract)

A) Some Reasons for Which LISSASPAC Are Interested to Invite Library and Information Science Researchers and Professionals to Join

Australian and New Zealand Standard Classification of Occupations categorically classifies 'librarians' under 'professionals', 'library technician' under 'technicians and trades workers', and 'library assistant' under 'clerical and administrative workers.' This means that professionalization of

library staff in the Oceania region is greatly improved, which is attractive for library and information science researchers and professionals in Asian countries.

Australian Library and Information Association (ALIA) recognizes that both librarians and library technician are library and information professionals, and accredits their educational programs, which are also attractive and interesting.

ALIA's *Guidelines, Standards and Outcome Measures for Australian Public Libraries* published in 2016 is also attractive, which I suppose is one of the best public library guidelines in the world.

B) Incentives to Library and Information Science Researchers and Professionals in the Oceania Region

ALIA's *Guidelines* which was mentioned above, lists “economic and workforce development” and “digital inclusion, especially for those at risk of being marginalized from society. . .” as two of six objectives of the public library. They are particularly important for the public libraries in developing Asian countries. In addition to APEC and TPP, which are economic cooperative agreements among Asian countries and the Oceania region, there should be much more cooperative activities among these countries in the field of library services.

Many academic libraries of Australian universities have some troubles to employ properly-trained Asian library specialists, mainly because there is not enough number of those professionals. By joining LISSASPAC, they may find some solutions for this problem.

1. はじめに

1) LISSASPAC から見たオセアニア地域の図書館界の魅力（誘因）、2) オセアニア地域から見た LISSASPAC の魅力（誘因）、というアプローチの仕方で、「オセアニア地域向け展開の可能性」を検討してみたい。「オセアニア地域」と言っても、1) オーストラリアを含まない太平洋の島々を指す狭い意味と、2) オーストラリア、ニュージーランドを含むポリネシア、ニューギニアを含むメラネシア、そしてミクロネシアを含む広い意味、の2種があるようであるが、ここでは、オーストラリアを含む広い意味で用いる。

2. LISSASPAC から見たオセアニア地域の図書館界の魅力（誘因）

LISSASPAC のフルネームは Library and Information Science Society for Asia and the Pacific である。日本名はアジア太平洋図書館情報学会で、今日はその日本支部結成の記念式典である。この LISSASPAC という学会は 2015 年に設立されているが、その設立目的を見ると、次のようになっている¹⁾。

1) 図書館情報学の専門職、その教育・訓練の進展に貢献すること。すべての地域における図書館情報学関連の研究者間の共同・協働の機会を、特に個人的な協力関係を通じて提供すること。

- 2) 会員の国における図書館情報学の（最善の）実践を促進させること。
- 3) 図書館情報学に関する会議、セミナー、ワークショップを開催すること。
- 4) 学会の目的に沿い、学会員のためにジャーナル、ニューズレター、研究書を刊行すること。さらには、学会の目的に沿う他の事も行うこと。

以上の設立目的を読むと、学会名の一部となっている「for Asia and the Pacific」との関連が見えてこない。しかし、2016年の理事会の議事録を見ると、「学会はアジアと太平洋地域の国々を代表とする...」²⁾、と記録されているので、学会はあらゆる国を含めながらも、やはりアジアと太平洋地域が主であるように思われる。

現在、カナダ支部、中国支部、インド支部、インドネシア支部、イラン支部、日本支部、韓国支部、マレーシア支部、ネパール支部、フィリピン支部、シンガポール支部、タイ支部、アメリカ合衆国支部、の14支部が出来ているが³⁾、学会が名称に「アジア太平洋」(for Asia and the Pacific) という用語を用いるのであれば、オセアニア、すなわちオーストラリアやニュージーランドの図書館情報学関係者にも会員になってもらう必要があるように思われる。

以上のことは、LISSASPAC から見たオセアニア地域の図書館界の魅力（誘因）というより、オセアニア地域の図書館情報学関係者が LISSASPAC の会員になる必要性を述べたものである。オセアニア地域の図書館界は、LISSASPAC から見て、特に日本の図書館界から見て、極めて魅力に富んでいる。それを次に検討する。

オーストラリアやニュージーランドには『オーストラリア・ニュージーランド標準職業分類』(Australian and New Zealand Standard Classification of Occupations)⁴⁾というのがあり、その職業分類（表）を見ると、a)「管理者」(managers)、b)「専門職」(professionals)、c)「テクニシャン・商人」(technicians and trades workers)、d) 地域・個人的サービス業者 (community and personal service workers)、e)「秘書的・事務的職員」(clerical and administrative workers)、f)「セールスマン」(sales workers)、g)「機械操作員・運転手」(machinery operators and drivers)、h)「肉体労働者」(labourers)、という八つの大きな枠組みがあり、ライブラリアン (librarian) は「専門職」カテゴリー、図書館テクニシャン (library technician) は「テクニシャン・商人」カテゴリー、図書館アシスタント (library assistant) は「秘書的・事務的職員」カテゴリーに入っている。換言すると、オーストラリアとニュージーランドの図書館にはライブラリアン、図書館テクニシャン、図書館アシスタントという3種の職業があり、それが図書館界だけでなく、社会的にも承認されている、ということである。

オーストラリアには、オーストラリア図書館情報協会 (Australian Library and Information Association: ALIA) という職能団体があり、ALIA はライブラリアンと図書館テクニシャンを図書館情報専門職と理解し、その2種の職業人を養成するプログラムを認定している。認定に関しては、アメリカの自発的な認定と異なり、イギリス方式で認定権限を国から認められている。なお、ライブラリアンと図書館テクニシャンを同じ図書館情報専門職（員）と言っても、会員になる際には区別されており、ライブラリアンはアソシエーツ会員、図書館テクニシャン

は図書館テクニシャン会員というふうにカテゴリー化されている⁵⁾。プログラム認定の場合も、当然ながら認定基準に差がある⁶⁾。

2016年現在、ライブラリアン養成プログラムとして認定されている大学は10大学、図書館テクニシャンは職業専門学校（VET: vocational education and training. 特に公立の機関はTAFE: Technical and Further Education と呼ばれる）で養成されるが、17職業専門学校だけが認定されている⁷⁾。150前後の司書課程がある日本の状況とはだいぶ異なる。また、職業専門学校でも学士号や大学院修了証を授与する学校もある。詳細なことは、大谷大学の山本教授と共著で2016年に刊行している『21世紀の図書館職員の養成』⁸⁾を読んで頂きたいが、日本にとっては極めて魅力に富むオーストラリアの図書館界である。

ニュージーランドの状況は少し異なる。ニュージーランドには、ニュージーランド図書館情報協会 Aotearoa (Library and Information Association of New Zealand Aotearoa: LIANZA) があり、オーストラリアのように会員に区別は設けていない。しかし、「専門職登録会員」(professional registration) というサブカテゴリーがある⁹⁾。それは、オーストラリアのライブラリアンとの互換性を可能にするためと推測される。また、図書館の発展は専門職員であるライブラリアンを中心に推進されるのだ、という意気込みの表れのようにも思われる。オーストラリアでもニュージーランドでもライブラリアンとは、図書館情報学の学士号保持者か大学院課程の履修者のことである。このように、養成に関してはアメリカの状況とは異なる。ライブラリアン養成の視点からも、オーストラリアとニュージーランドの図書館界の状況は、日本だけでなく LISSASPAC にとっても魅力的であるように思われる。

LISSASPAC や日本にとって魅力的であると思われる点がもう1点ある。それは、公共図書館のガイドラインである。IFLA が2010年に *IFLA Public Library Service Guidelines* を刊行し、日本では2015年に JLA から『IFLA 公共図書館サービスガイドライン』という書名で翻訳が出ている。オーストラリアでは、ALIA が2011年に公共図書館ガイドラインを作成している。2012年には改訂版を出している。その2012年版をさらに改訂して、2016年に *Guidelines, Standards and Outcome Measures for Australian Public Libraries* というタイトルで公表している¹⁰⁾。個人的な感想であるが、現在、世界で最も優れた公共図書館ガイドラインの一つであり、極めて斬新なものである。

3. オセアニア地域から見た LISSASPAC の魅力（誘因）

アジア太平洋経済協力（APEC）が1989年にオーストラリアの首相の提唱で、オーストラリア、ニュージーランド、日本、韓国、フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、アメリカ合衆国、カナダ、の計12カ国で発足している。現在では、中国、台湾、ベトナム、パプアニューギニア、メキシコ、チリ、ペルー、ロシアが加盟している¹¹⁾。

また、環太平洋パートナーシップ（TPP）協定というのがある。最近、アメリカ合衆国が脱退したが、TPP協定は日本、マレーシア、シンガポール、ベトナム、ブルネイ、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、チリ、メキシコ、ペルー、の合計11カ国の経済連携協定

である¹²⁾。このように、オセアニア地域とアジアとは経済的に深い関係にある。

2016年に LISSASPAC との連携でインドにおいて開催された図書館情報学会議の記録に、次のような1文がある。「図書館は社会と互いに結びついており、相互依存の関係にある。図書館の無い社会は意義がなく、社会の無い図書館というものは存在しない。図書館は、社会の進展 (social progress) の車輪として極めて重要な役割を果たす。」¹³⁾

図書館が果たす (貢献する) 「社会の進展 (social progress)」とは何だろうか。上記した ALIA の 2016 年の *Guidelines, Standards and Outcome Measures for Australian Public Libraries* の大きな特徴の一つは、評価 (法) をしっかりと位置づけていることである。従来、評価の方法としては、入館者数、貸出冊数、レファレンス件数、などが採用されていたが、上記の ALIA の 2016 年ガイドラインはそのようなものは output であるとして退け (軽視し)、outcome という用語を採用して、新しい評価法 (評価項目) を提唱している。Outcome の訳は難しいが、具体的な outcome とは、次のようなものである¹⁴⁾。

- 1) 初期児童の発達も含めて、リテラシーや生涯学習に役立っている。
- 2) よく知らされており (informed)、連携の取れた市民性を創出している。
- 3) 地域社会のデジタル化、特にデジタル技術へのアクセス制限やデジタル・リテラシーが低いために社会から疎外されがちな人々へのデジタル支援ができている。
- 4) 個人的な発達や幸福感の醸成に貢献している。
- 5) 創造的、文化的包括性のあるコミュニティを創出している。
- 6) 経済発展と労働力の増進に貢献している。

従来、公共図書館の役割としては、読書の推進とか、文化的な意義が強調されがちであったが、上記のように、オーストラリアの公共図書館ガイドラインはさらに進めて、その機能 (目的) の一つとして地域住民の経済的発展まで含めるようになっている。公共図書館は (他の館種も含めて)、上記のインドにおいて開催された図書館情報学会議で述べられているように、「社会の進展 (social progress) の車輪として極めて重要な役割を果たす」、と言われたりするが、社会の進展は経済的な進展と関連が深い。特に、経済的に恵まれていない地域における「社会の進展」は経済的な進展が前提となる。

また、ALIA のガイドラインの outcome 指標の中には、「デジタル技術へのアクセス制限やデジタル・リテラシーが低いために社会から疎外されがちな人々へのデジタル支援」が含まれているが、そのような人々は往々にして経済的に恵まれていない環境にある場合が多い。今後の公共図書館は、特にアジアの公共図書館は、経済的に恵まれていない人々に焦点を当てたサービスを重視する必要があるように思われる。

今後、公共図書館は、地域経済の発展と図書館の関係も含めて、「図書館と経済」という要素も考えて行く必要があるように思われる。その視点を国レベルに向けると、最初に紹介した APEC や TPP と結びつくようにも思われる。すなわち、オセアニアは APEC や TPP でアジアと深く結びついており、オセアニアは図書館の世界でもアジアと深く結ぶべきである、

という結論に至る。

図書館界における直接的な関連では、アジア太平洋図書館情報教育国際会議（Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice：A-LIEP）というのがあり、2006年にシンガポールでの初回開催後、2回目は台湾（2007年）、3回目は日本（2009年）、4回目はマレーシア（2011年）、5回目はタイ（2013年）、6回目はフィリピン（2015年）、7回目は中国（2016年）で開催され、8回目は2017年にタイで開催されることになっている¹⁵⁾。その会議にはオセアニアからも図書館情報学の研究者が参加しており、既に LISSASPAC への参加の機運は高まっていると言える。

また、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドの3国間では、各国の図書館協会が共同主催者となって、2018年に合同の図書館大会が開催されることになっている¹⁶⁾。そのような動向もオセアニアの図書館情報学関係者の LISSASPAC への参加を容易にし、LISSASPAC のメリットを訴える良い機会であると思われる。

2010-14年の5年間のオーストラリアにおける専門職ライブラリアンの養成プログラムに登録している学生の状況を見ると、2010年は1167人（外国人学生：153人（13%））、2011年は1138人（外国人学生：126人（11%））、2012年は1125人（外国人学生：138人（12%））、2013年は1017人（外国人学生：105人（10%））、2014年は992人（外国人学生：102人（10%））、となっている¹⁷⁾。この期間（5年間）の外国人学生数は常に10%以上を占めており、その殆どはアジアからの留学生である。なお、2015年以降の状況はデータが入手できないだけで、最近でも状況はあまり変わっていないと推測される。このように、専門職ライブラリアン養成の視点からもアジアとオーストラリアの関係は深い。しかしまた、オーストラリアでは専門職ライブラリアンの養成を行っている10大学のうち、3大学が今後学生の募集を止めるという情報もあり、オーストラリアにおける図書館情報学教育の将来は厳しいものがある。LISSASPACに参加することにより、そのような悩みの解決策が見出せる機会になる可能性もある。

オーストラリアの図書館界は、もう一つの悩みも抱えている。それは、オーストラリアの学校図書館界である。オーストラリアでは日本でいう司書教諭のことをティーチャー・ライブラリアン（teacher librarian）と称している。ALIA とオーストラリア学校図書館協会（Australian School Library Association）は「すべての学校図書館にティーチャー・ライブラリアンを」と唱導活動が続けているが、ほんもののティーチャー・ライブラリアン（ALIA が認定したティーチャー・ライブラリアン養成コースの卒業生）が勤務する学校図書館は極めて少ない¹⁸⁾。日本と同じような問題を抱えているという意味で、オーストラリア学校図書館界は、日本や他のアジア諸国の状況に関心があると思われる。

日本とオーストラリア間で図書館と直接関係のある分野を概観すると、オーストラリアの国立図書館と大学図書館に日本研究を支援するための日本語コレクションがある。日本研究とそれを支援する日本語コレクションを有している有名な大学としては、オーストラリア国立大学（Australian National University）、モナシュ大学（Monash University）、メルボルン大学

(University of Melbourne)、シドニー大学 (University of Sydney)、ニューサウスウェルズ大学 (University of New South Wales)、などがある。しかし、日本語を扱えるジャパン・スペシャリストと呼ばれる図書館員に関しては、最近の大学の緊縮財政に加えて、適切なライブラリアン不足などで、どこの大学図書館も悩みを抱えている¹⁹⁾。

日本の国立国会図書館は、国際交流基金からの資金援助を得て、そのような日本語コレクションを担当する職員を国際的に（世界各国から）招待して研修を行っている。少し古いデータであるが、1999-2004 年間にオセアニアから 9 人の図書館員がその研修に参加している²⁰⁾。さらに古いデータでは、『オーストラリアの図書館』によると、1960 年から 1988 年間にオーストラリア国立図書館に勤務する 10 人の図書館員が国立国会図書館に研修に来ている²¹⁾。

私は、2014 年に 1 週間かけて、オーストラリアの国立図書館、大学図書館、公共図書館、ALIA を調査して来たが、オーストラリアの国立図書館には Shinozaki Mayumi さんという方がおられて、日本語コレクションの担当をしていた。図書館情報大学の卒業生だそうで、彼女が採用されるまでは、2 カ年契約の形で国立国会図書館から図書館員が派遣されていたようである。上記の『オーストラリアの図書館』は、その国立国会図書館からの派遣職員によって翻訳されたもので、その中に「日本語版への序文」という次のような 1 文が載っている。「この国は文化的にも経済的にも、大方はヨーロッパの遠く離れた外延にあると見られてきた。しかしながら、1980 年代に至り、この日本語版の終章に見るように、その焦点に変化が生じ、オーストラリア人は、この大きな島大陸がヨーロッパの分家であるというよりは、躍動を続けるアジア・太平洋地域の一部を成していることを認識するようになっている。（中略）1980 年代の機械化・情報化時代の到来とともに、オーストラリアの図書館・情報サービスは、オンライン・サービス、ネットワーク化、国内資源の協力的利用を通して、‘距離の暴虐’を打ち破ることに成功した。今やこのサービスをアジア諸国に広げる時が来たと考える。その手始めとして、われわれは日本の図書館員とその本書を共有したいと念ずる。」²²⁾この文章は 30 年前のものであるが、オーストラリアの図書館界が今でもこの気持ちを維持することを期待したい。

世界的にも上位にランクされているオーストラリア国立大学にはメンジー図書館 (Menzies Library) というのがある。メンジー図書館は、アジア・太平洋地域の歴史、人類学、政治や国際関係、文学・語学、宗教や哲学等の研究を支援する研究図書館であり、アジア・太平洋関連のコレクションとしては世界的にも有名である。図書館には、東南アジア・南アジア・中近東 (Southeast Asia, South Asia & Middle East) 担当のスペシャリスト、太平洋地域 (the Pacific) 担当のスペシャリスト、中国・日本・韓国 (China, Japan & Korea) 担当のスペシャリストが勤務しているが、2017 年現在、中国・日本・韓国担当のスペシャリストは F. Schimmelpfennig という人である²³⁾。一人で三つの国の担当スペシャリストになれるか、疑問に思うが、そのような状況も大学の緊縮財政に加えて、適切なライブラリアン不足のせいであると推測される。

オーストラリアにはオーストラリア・アジア研究学会 (Asian Studies Association of Australia) があり、その委員会の一つとしてオーストラリア・アジア図書館資源 (Asian Library Resources of Australia) がある。その委員会を通じてオーストラリアのアジア図書館ス

ペシャリストは情報交換を行い、連携して課題の解決に努めている²⁴⁾。LISSASPAC はそのようなアジア図書館スペシャリストにとっても魅力的であると推測される。

さらには、ALIA の（下部）組織は委員会（committee）ではなく、“interest group” という名称で構成されているが、その “interest group” の中に、「アジア・太平洋特別関心グループ」（Asian Pacific Special Interest Group）というのがあり、最近は太平洋諸島の資料保存に特に関心が行っているようであるが、オーストラリアの図書館界と接触しようとする場合、そこが窓口の 1 つになると思われる。

以上、「オセアニア地域向け展開の可能性」というテーマで、1) LISSASPAC から見たオセアニア地域の図書館界の魅力（誘因）と 2) オセアニア地域から見た LISSASPAC の魅力（誘因）、を検討した。LISSASPAC は学としての図書館情報学に関心を抱く研究者を主体とした学会のように思われるが、図書館情報学の場合、実践に裏打ちされないと意義がない学問のように思われる。そのような視点から、私の微力のせいもあるが、実践場面が主となった。

注（サイトの確認最終日はすべて 2017 年 7 月 2 日）

- 1) Library and Information Science Society for Asia and the Pacific, *Objective*.
<http://lissaspac.org/about.html>
- 2) Library and Information Science Society for Asia and the Pacific, *Minutes of the second Executive council meeting of “LISSASPAC” held on /01/10/2016 at 6 pm at the Tamil Nadu Dr. Ambedkar Law University Library, Chennai*.
<http://lissaspac.org/Minutes%20of%20second%20Meeting.pdf>
- 3) Library and Information Science Society for Asia and the Pacific, *National Chapter*.
<http://lissaspac.org/about.html#>
- 4) Australian Bureau of Statistics, *Australian and New Zealand Standard Classification of Occupations*.
[http://www.abs.gov.au/ausstats/abs@.nsf/Latestproducts/1220.0 Search02013,%20Version%201.2](http://www.abs.gov.au/ausstats/abs@.nsf/Latestproducts/1220.0%20Search02013,%20Version%201.2)
- 5) Australian Library and Information Association, *Membership*.
<https://membership.alia.org.au/membership>
- 6) Australian Library and Information Association, *ALIA Accredited Library and Information Science Courses*.
<https://www.alia.org.au/course-accreditation>
- 7) Australian Library and Information Association, *ALIA LIS Education, Skills and Employment Trend Report 2016*.
<https://www.alia.org.au/employment-and-careers/alia-lis-education-skills-and-employment-trend-report>
- 8) 大城善盛・山本貴子共著『21 世紀の図書館職員の養成——アメリカとオーストラリアを事例に』日本評論社, 2016.
- 9) LIANZA, *Personal Membership*. <https://lianza.org.nz/membership/personal>; LIANZA, *Professional Registration*.
<https://lianza.org.nz/professional-registration-home>
- 10) Australian Library and Information Association, *Guidelines, Standards and Outcome Measures for Australian Public Libraries*. 2016.
https://read.alia.org.au/sites/default/files/documents/guidelines_standards_and_outcome_measures_for_australian_public_libraries.pdf
- 11) ウィキペディア. 「アジア太平洋経済協力」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%B8%E3%82%A2%E5%A4%AA%E5%B9%B3%E6%B4%8B%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%8D%94%E5%8A%9B>

- 12) ウィキペディア, 「環太平洋パートナーシップ」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%92%B0%E5%A4%AA%E5%B9%B3%E6%B4%8B%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%83%E3%83%97%E5%8D%94%E5%AE%9A>
- 13) Central Library of The Tamil Nadu Dr. Ambedkar Law University, *National Conference on “Legal and Ethical Aspects of Librarianship: Issues and Challenges”*. Organized in Association with LISSASPAC.
http://lissaspac.org/event-india_law.html
- 14) 上掲 注 10)
- 15) Department of Library Science, Chulalongkorn University, *The 8th A-LIEP Conference*.
<http://www.arts.chula.ac.th/dlives/aliep2017/about.html>, その他
- 16) Australian Library and Information Association, *Asia-Pacific Library and Information Conference 2018*.
<https://www.alia.org.au/events/13403/asia-pacific-library-and-information-conference-2018>
- 17) 上掲 注 7)
- 18) 上掲 注 8)。及び Australian Library and Information Association, *ALIA Future of The Library and Information Science Profession: School Libraries*.
<https://www.alia.org.au/sites/default/files/2017%20school%20libraries%20report.pdf>
- 19) 適切な図書館スペシャリスト不足の例が、次の文献で紹介されている。Hatta, Ayako, “Experience of Shared Positions at The University of Melbourne and Monash University Libraries,” *ALRA Newsletter*. No.69 (January 2017), p.13-14
http://www.alra.org.au/newsletter1701/1701_full_issue.pdf
- 20) 樋口恵子 「『日本研究情報専門家研修』事業について」『大学図書館研究』No.74, 2005.3, p.28-34.
- 21) ピーター・ビスカップ；ドーリーン・M・グッドマン著 中野捷三訳『オーストラリアの図書館』日本図書館協会, 1988.
- 22) 上掲 注 22)
- 23) Australian National University. *Menzies Library*.
<http://anulib.anu.edu.au/using-library/branches/menzies-library>; Schimmelpfennig, F., “News from the ANU Library,” *ALRA Newsletter*. No.69 (January 2017).
http://www.alra.org.au/newsletter1701/1701_schimmelpfennig_1.html
- 24) オーストラリア・アジア図書館資源委員会、すなわちアジア図書館スペシャリストたちは、隔年で開催されるオーストラリア・アジア研究学会の会議に委員会として参加し、そこで情報交換を行ったり、課題解決に当たっている。また、ジャーナル：*ALRA Newsletter* も頻繁に刊行している。
参照：ALRA Committee, *ALRA Newsletter*.
<http://www.alra.org.au/newsletter.html>